

国語科通信 その7

令和2年5月1日

●「石炭をば はや積み果てつ。」～小説『舞姫』の時代～

①専用サイト 2年生英語(4月28日付)の「和文英訳にトライ」は3年生の皆さんにも是非取り組んでもらいたい課題です。『羅生門』『こころ』『舞姫』などの国語で学習した名作が教材になっています。是非、挑戦してください。

②休業中の課題『舞姫』の予習、学習は進んでいますか。本文の総字数は約16000字です。たとえば、センター試験の小説の字数は大体4000字～5000字で、一読を求められる時間はおよそ10分以内です。4000字10分…とすると、**40分**(せいぜい1時間)でひとまず一読できます。

③授業は、皆さんの予習を前提にしています。必ず、指示された内容をやっておいてください。

④現在、返信されてくる「状況確認」で学習の進捗状況を見ると、『舞姫』の学習も半数くらいの方が終わっているようです。

⑤今回は、『舞姫』で描かれる「時代」について、**冒頭の「石炭」**から考えてみましょう。以下、所謂「ネタバレ」を若干含みますの

で本作を読んでから続きを読む方がよいと思います。

⑥世界史選択者、日本史選択者、地理選択者それぞれいますが、各立場から、「石炭」の歴史、「石炭」の持つ意味を捉えてみましょう。すべてはつながっています。

⑦16000字の小説の冒頭がなぜ「石炭」なのか。書き出しを工夫しない作家はいません。冒頭の表現を追うことで、作者が、読者にどういう世界(時代)を見せようとしているのかを探ることができます。

⑧『舞姫』の発表は、1890年(明治28年)です。今から130年前の小説です。『舞姫』は鷗外の自伝的小説と言われます。

⑨「自伝的」と言うのは、作中人物や展開は「虚構」ですが、作者の実生活、実体験と、多くが重なるというものです。あくまで「虚構」であることを承知しつつも、作者の実人生と重ねつつ作品を理解できたら面白いと思います。

⑩作中の主人公(太田豊太郎)は政治家を志しドイツに留学しますが、作者鷗外は軍医として、明治22年(1884年)にドイツに留学します。「国費留学生」です。エリート中のエリートです。

⑪映画『タイタニック』を鑑賞するのも、時代の理解の助けになる

かもしれません。『タイタニック』は、史実に基づき描かれた作品です。1912年4月、処女航海のタイタニック号は1500名とも言われる犠牲者を出して沈没します。

⑫豪華絢爛な社交が繰り広げられる上部の客室と対照的に、船底では、上半身裸体の多くの作業員達が燃えさかるボイラーの中に燃料の「石炭」を真っ赤な顔をしてくべるシーンが描き込んであります。タイタニックは、一日600トンの石炭を使い、190人もの石炭作業員が24時間交代で働いていたと言われます。

⑬非常事態の現下、下支えする人々で成り立っている「安心・安全」「快適」な「資本主義社会」の姿と重なります。

⑭当時、イタリアから出航して日本に帰港するまでの日数はひと月以上です。

⑮高額な旅費や、何年にもわたる現地滞在費用が全て公費でまかなわれるという「国費留学生」事情を鑑みると、主人公の置かれているもの、背負っているものの大きさがおぼろげにわかります。

⑯いかなる作品も、時代の制約、影響を免れることはできません。

⑰カミュが大戦後『ペスト』によって、時代とそこに生きる人間を描いたのと同じように、『舞姫』の主人公が「近代」と呼ばれる時

代の中でどう生きようとしたのかを読み取りましょう。

⑭「近代」はもう過去、終わったことと思う人もいるでしょう。しかし、たとえば評論文「『である』ことと『する』こと」で、盛んに論じられている「過近代」「非近代」などを学習すると、現代は、「近代」の延長線上にあり、「近代」的世界、「近代」的価値観をしっかりと捉える必要にあることがわかってきます。

⑮森鷗外と「双璧」と並び称される同時代の夏目漱石も、やはり同じように日本の「近代」を描いた作家です。『こころ』で「先生」が苦悩した姿と、『舞姫』の「太田豊太郎」が苦悩した姿を、「近代」という時代の中で合わせて捉えてみることも読解の助けになると思います。